# 平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

| 整理番号 | 5 | ー | 48 |
|---|---|---|---|

## 1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 雄武町戦没者追悼式 | | | | | |
| 評価者 | 担当課名 | | 保健福祉課 | 担当係名 | | 社会福祉係 |
| | 管理職 | 職名 | 課長 | 作成者 | 職名 | 係長 |
| | | 氏名 | 山 崎 佳 之 | | 氏名 | 渡 部 憲 一 |
| 事業の概要 | 過ぐる戦争における雄武町戦没者の英霊に対し、追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにすることを目的として、雄武町戦没者追悼式を挙行する。 | | | 全体計画 /単年度繰返<br>（平成 20 年度～ 24 年度） | | |
| | | | | 事業費 | 国・道支出金 | 千円 |
| | | | | | 地方債 | 千円 |
| | | | | | その他 | 千円 |
| | | | | | 一般財源 | 900 千円 |
| | | | | | 事業費計 | 900 千円 |
| 実施方法 | ■ 直営 | | □ 民間委託 | | □ その他（　　） | |
| 第５期総合計画（前期） | ■ 登載事業 | | □ 非登載事業 | 優先度 | B | |
| 事業の位置付け | 政策目標 | 2 | ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～ | | | |
| | 基本施策 | 10 | 地域福祉の推進 | | | |
| | 単位施策 | 1 | 福祉意識の醸成 | | | |
| | 事務事業の種類 | ■ | 自治事務 | □ | 法定受託事務 | |
| | その他計画・根拠等 | | | | | |

| 事業費 | 実施年度 | 20年度（実績） | 21年度（実績） | 22年度(実績) | 23年度(実績) | 24年度(見込) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国・道支出金 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 地方債 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | その他財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 雄武町負担額（一般財源） | 138 千円 | 173 千円 | 133 千円 | 136 千円 | 180 千円 |
| | 合計 | 138 千円 | 173 千円 | 133 千円 | 136 千円 | 180 千円 |

## 2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 【誰、何が（対象）】 | 町民 | 望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標） | | |
| 【抱える課題やニーズは】 | 平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛の希薄と平和に慣れ、戦争の惨劇を忘れる恐れがある。 | 追悼式の開催 | | |
| | | 指標（指標計算式／解説） | 目標値及び実績値 | |
| 【どのような状態になることを目指したのか（意図）】 | 常に平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛精神と平和への誓いを新たにする。 | ① 開催回数 | 目標年度 | 平成23年度 |
| | | | 目標値 | 1 回 |
| | | | 実績値 | 1 回 |
| | | | 達成度 | 100.0 % |
| 【その結果、どのような成果を実現したいか】<br>※成果＝目的 | 先人に対する敬愛さと平和が維持される。 | ② | 目標年度 | |
| | | | 目標値 | |
| | | | 実績値 | |
| | | | 達成度 | % |

| 内容（どのような手段で何を行ったか） | |
|---|---|
| ①追悼式挙行 | 過ぐる戦争における雄武町戦没者の霊に対し、追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにするため、雄武町民センターで戦没者追悼式を挙行した。 |
| | |
| | |

## 3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

| | | |
|---|---|---|
| **必要**<br>必要／概ね必要／課題あり | □義務的なもの<br>□全部<br>□一部 | 本町における平和と繁栄を築いた先人に対する追悼の誠を捧げ、平和への誓いを新たにするため必要な事業であり、式典を挙行しない場合、戦争の惨劇などが現代に生きる世代に伝わらず、平和への誓いや先人に対する感謝の気持ちが希薄となる。 |

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

| | | |
|---|---|---|
| **有効**<br>有効／概ね有効／課題あり | 設定した目標値の達成状況<br>■達成<br>□ほぼ達成<br>□下回る | 式典を挙行したことで、平和と繁栄を築いた先人に対する敬愛さ及び平和への誓いを新たにすることができた。 |

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

| | | |
|---|---|---|
| **効率的**<br>効率的／概ね効率的／課題あり | 判断の理由<br>■事業費抑制<br>■人員削減<br>□時間短縮・作業軽減<br>□その他 | 平成１８年度から屋内での挙行としたことで、天候に左右されず、高齢の遺族でも出席し易くなった。専用の祭壇を使用し協力人員の抑制と準備時間の短縮に努めながら、限られた予算で執行できるよう工夫している。 |

(4)事務事業の公平性

| | | |
|---|---|---|
| **公平**<br>公平／概ね公平／公平でない | 判断の理由<br>□受益者負担がある<br>□受益者負担がない<br>□受益が一部に偏る<br>■その他 | 雄武町全体の戦没者を追悼する行事であり公平と考える。 |

## 4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

| 自己評価（一次評価） | 評価会議評価（二次評価） | 町長評価（三次評価） |
|---|---|---|
| A | | |
| 戦争と戦没者は忘れてはならない事実であり、恒久平和を願うためにも、戦没者追悼式の挙行は必要性が高い。 | | |

**今後の展開方向**
（Action）

| | | |
|---|---|---|
| **継続／現状維持** | | |
| 本町における平和と繁栄を築いた先人に対する追悼の誠を捧げ、平和への誓いを新たにする役割を担っており、引き続き実施すべき事業である。 | | |

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

## 5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）